

各位

プレスリリース

株式会社農業総合研究所

## 「農家の直売所」が 2,000 店舗を突破 農産物流通の主流であるスーパーマーケットで支持され達成

株式会社農業総合研究所（本社：和歌山県和歌山市、代表取締役会長 CEO：及川 智正、以下「当社」）は、当社が展開している「農家の直売所」が、11月 2,000 店舗を突破したことをお知らせします。2007 年の創業から 16 年での 2,000 店舗突破（11 月末日付 2,013 店舗）全国のスーパーマーケットの約 9% の店舗に「農家の直売所」があることとなります。



### ■ 「農家の直売所」とは

「農家の直売所」とは都市部を中心としたスーパーマーケット内に設置された、独立した農産物売り場です。新鮮な農産物を最短 1 日で、「農家の直売所」で販売することができます。当社の 92 箇所の集荷拠点、あるいは生産者と売り場をつなぐ「農直システム」など、当社独自の流通プラットフォームが基盤となっています。

「農家の直売所」では、集荷拠点に置かれたタブレットに生産者が自ら値段、そして出荷先を決め、入力します。自分のつくった農産物のパッケージにイラストを施すなど、販売

のために工夫を凝らす生産者も数多くいます。「農家の直売所」によって、生産者は事業主としての意識を醸成されるのです。

生産者のメリットは、これだけではありません。農産物はサイズ、色、形などによって「規格」が定められています。この規格から外れた農産物は味や鮮度に問題がなくても、廃棄されるか、加工用として極めて安価に取引されています。

「農家の直売所」ではこうした従来の規格にとらわれることなく、生産者が自ら価格や販売先を決めることができます。それゆえフードロスの削減、さらに生産者の所得拡大にも寄与しています。

生活者にとってのメリットは安全・安心でコストメリットの高い農産物を、日常の買い物で最も頻繁に訪れるスーパーマーケットで購入できることです。

日本では、青果類の多くはスーパーマーケットで販売されています。この農産物最大の流通チャンネルに「農家の直売所」を設置することで、生産者、そして生活者の双方に大きなメリットを継続的に提供することができるのです。



## ■ 「農家の直売所」が増加し続けた理由と、さらなる機能強化

「農家の直売所」は上述のメリットが生産者、生活者、そしてスーパーマーケットから支持され、現在まで順調に増え続けています。

昨今、かつてないほどの物価高に見舞われています。農業も例外ではなく、農産物の生産に必要な肥料や燃料も高騰しています。ですが、ほとんどの生産者はこうした経費上昇を農産物の価格に転嫁できずにいます。ですが「農家の直売所」であれば、生産者は自らの工夫によって、農産物の価値を伝えることができます。

農産物流通の無駄を廃し、生活者・生産者の双方に価格と品質の両面のメリットを提供し続けている「農家の直売所」の社会的な必要性は 2,000 店舗を超え、創業当初以上に高まっています。

今後は仕入力と販売力を拡大するために物流プラットフォームをさらに機能強化し、物流効率の向上をはかっていきます。

具体的には集荷場を増やししながら、青果市場との連携や産地との連携を強化していきます。さらに物流センターを増設するなど、域内での物流の効率化をさらに進め、同一域内での販売を強化していきます。これらの施策により従来の「広域な産直」よりも、いっそう新鮮な農産物を届けやすくなる「エリア産直」を実現していきます。

## ■ 会社概要

### 株式会社 農業総合研究所 (JPX 証券コード 3541)

〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田 99 番地 12 寺本ビル II 4 階

<https://nousouken.co.jp/>

「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、日本及び世界から農業が無くならない仕組みを構築することを目的とした産直流通のリーディングカンパニーです。全国約 10,000 名の生産者と都市部を中心とした約 2,000 店舗の小売店を IT でダイレクトに繋ぎ、情報・物流・決済のプラットフォームを構築することにより、農産物の産地直送販売を都市部のスーパーで実現した「農家の直売所事業」と、生産者から農産物を買取り、ブランディングしてスーパーに卸す「産直卸事業」を展開しています。

## ■ 本件に関するお問い合わせ

株式会社農業総合研究所 経営管理部 広報課

〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田 9 9 番地 1 2 寺本ビル II 4 階

TEL : 073-497-7077 Mail : [pr@nousouken.jp](mailto:pr@nousouken.jp)